

令和6年度 未来の藤沢市を考えるアンケート結果

総合指針の改定に伴い、未来の藤沢市についてのアンケートを実施しました。

1 アンケート概要

- 対 象 : 藤沢市に関心のある方（全世代）
方 法 : 市公式LINE配信、広報ふじさわ、市公式ホームページ、市内高等学校16校へのチラシ送付等により周知し、e-kanagawaにて実施
実施期間 : 2024年（令和6年）8月25日から9月13日まで
LINE配信 : 配信数 99,652件
開封数 61,520件（開封率 61.7%）
アンケートクリック数 4,491件（クリック率 4.5%）
回答数 : 1,390人

2 アンケート結果

（1）回答者の属性

年齢	人数	割合
～9歳	1	0.1%
10～17歳	10	0.7%
18～29歳	110	7.9%
30～39歳	346	24.9%
40～49歳	346	24.9%
50～59歳	304	21.9%
60～69歳	182	13.1%
70～79歳	71	5.1%
80歳～	20	1.4%
総計	1,390	100.0%

居住区分	人数	割合
藤沢市内に在住	1,346	96.8%
藤沢市外に在住（藤沢市に通学している）	1	0.1%
藤沢市外に在住（藤沢市に通勤している）	26	1.9%
藤沢市外に在住（近隣市、海外など）	17	1.2%
総計	1,390	100.0%

(2) 設問1の結果(3つまで選択可)

おおむね20年後の未来に向けて、 藤沢市がどんなまちになってほしいですか？	件数	割合
安心・安全・健康にらせるまち	1,085	27.3%
生涯元気に活動できるまち	526	13.2%
子どもの夢をみんなで支えるまち	515	13.0%
誰でも安全・自由に移動できるまち	461	11.6%
自分らしくホッとできるまち	377	9.5%
あるものを活かし、持続可能な暮らしができるまち	269	6.8%
ワクワクできるまち	229	5.8%
つながりをもてるまち	195	4.9%
世界に自慢できるまち	95	2.4%
思いを実現できるまち	58	1.5%
〇〇〇〇なまち※	161	4.1%
総計	3,971	100.0%

※〇〇〇〇なまちの意見(抜粋)

- ・子どもを一番に考えられるまち
- ・SDGsに沿った目標を達成する努力をすることが、市民の生活の向上につながるまち
- ・戦争を放棄し、いのちを大切にするまち
- ・出産、子育てしやすく住みやすいまち
- ・緑、田畑、景観を残し新旧共存出来るまち
- ・文化、芸術、スポーツが盛んなまち
- ・小さな声も大事にされるまち
- ・人それぞれの個性に寛容なまち
- ・あらゆる福祉の充実が図られるまち
- ・自然環境、住環境、街並みが整っているまち
- ・高齢者、障がい児者など誰かのサポートが必要な人たちもずっと暮らせるまち
- ・笑顔で挨拶できるまち
- ・市民が問題提起し、自身も考える、見える化されたまち
- ・森や海、自然とのつながりが感じられるまち
- ・若者と高齢者が支えあえるまち
- ・イキイキ働きながら子育てできるまち
- ・生き物(ペット、保護動物など)に優しいまち
- ・湘南文化を生み出すまち

(3) 設問2の結果(3つまで選択可)

理想のまちの実現のために、どの取組が必要だと思いますか？	件数	割合
救急・医療・介護・消防体制を充実し、安心して暮らせる環境づくり	701	17.1%
地震などの災害に対する安全対策	592	14.5%
市民オペラなど藤沢らしさのある文化の継承・発展や、図書館、美術館、博物館など文化施設の充実	160	3.9%
だれでも、どこでも、いつでも楽しめるスポーツ施策の推進	130	3.2%
藤沢宿などの歴史を活かした景観や、街並みを美しく維持する取組	109	2.7%
地球にやさしいエネルギーの活用を増やしたり、プラスチックごみを減らすなどの環境施策	124	3.0%
豊かな緑や海、動植物などの自然環境の維持	432	10.6%
安心して子育てができ、子どもたちが学ぶことができる環境づくり	620	15.1%
障がいがあっても、文化がちがっても、人となりがう考え方でも、生きやすく、暮らしやすくなるような取組	160	3.9%
商業地のにぎわいや特産品づくり、企業誘致、地域経済の活性化や雇用施策の充実	228	5.6%
藤沢の「食」を支え、生物多様性を守ることにもつながる農水産業施策	101	2.5%
日本中、世界中から来てもらえるような魅力的な観光施策	47	1.1%
新しいモビリティ(移動・交通手段)の充実や、渋滞を減らすなど道路に関する整備	314	7.7%
気軽につながり、交流ができるプラットフォームや場所づくり	92	2.2%
心が弾むような経験ができた、チャレンジして成長できる環境づくり	82	2.0%
ロボット、AIなど最新技術を活用した暮らしやすいまちづくり	72	1.8%
自分のやりたいことが実現して活躍できるようなバーチャルも含めた場所や体験の機会づくり	48	1.2%
その他※	82	2.0%
総計	4,094	100.0%

※その他の意見(抜粋)

- ・高齢でも自分の足で出歩くことが出来るまちづくり
- ・中心地とそれ以外の利便性や医療格差がなく、市内どこの地域でも暮らしがしやすいまちづくり
- ・独り高齢者を市でフォローする制度づくり
- ・想像力を養い思いやりの心を育む教育の充実
- ・幼稚園送迎ステーションや公園の拡充など子育てしやすい環境の整備
- ・駐輪場と健康器具の増設

- ・マンション等の高さ制限で景観を維持する
- ・経済的支援の大幅な拡充及び充実（経済的に困窮している人、賃金の大幅な値上げ→とりわけ救急・医療・介護・消防に従事している人たちに対して）
- ・既存のバスの路線や増便、最終バスの時間を遅くまで設定する等の利便性
- ・街中の歩道や道路が整備不足で、歩行者として危険な道をなくしてほしい
- ・ウォーカブルシティとして、車よりも歩行で移動出来る範囲に生活拠点、職場、教育、医療機関などがあり、脱車社会により、環境、歩行を中心とした街で健康やコミュニティも整うようなまちづくり
- ・若者の意見を実現できるまちづくり
- ・高齢者が安心して最後を迎えられる施設の充実
- ・不妊治療の助成金など少子化対策への取組
- ・小学校中学校の建て直しを早急に行わないと避難所もないと思うので、給食無償化など目先のことばかりではなく、もっと将来を見て児童学生の学ぶ環境見直しをしてほしい
- ・リベラル思考にこだわらず、日本の伝統文化を学び、日本人として海外で誇りを持てるような教育
- ・最新型のごみ焼却施設の設置
- ・再生可能エネルギー（太陽光、風力）などでエネルギー自立型を目指す
- ・自治会や町内会など地域のつながりを深め、新転入者にも地元住民が築き守っている穏やかな生活環境を共に守る協力体制が無理なく作ることができる状態を整える
- ・シャッター通りになってしまっているまちの再構築、道幅も安全に歩行出来るように整備し、生活に便利な環境作りに取り組んでほしい
- ・ペットを飼いやすいまち（公園、室内ドッグランの充実、預かり施設の充実など）
- ・市内地域格差のないまち
- ・子育て世代に対する経済的支援の充実
- ・貧困や虐待を見逃さない取組

(4) 設問3 (自由意見) の結果 回答件数908件

(カテゴリ別に細分化したため、表の件数は回答件数より増えている)

カテゴリ	件数	割合	基本目標	件数	割合
防犯	33	2.9%	基本目標1	114	10.0%
防災・消防・救急	81	7.1%			
歴史・文化	28	2.5%	基本目標2	49	4.3%
生涯学習・スポーツ	21	1.8%			
ごみ・廃棄物	21	1.8%	基本目標3	63	5.5%
環境(自然環境、温暖化対策)	42	3.7%			
子ども・若者・子育て	161	14.1%	基本目標4	201	17.6%
教育・給食	40	3.5%			
高齢者	31	2.7%	基本目標5	122	10.7%
障がい者	8	0.7%			
暮らし(居住)	14	1.2%			
医療・介護・健康づくり	30	2.6%			
見守り・地域共生(福祉)・在留外国人	39	3.4%			
雇用・就労	12	1.1%	基本目標6	69	6.0%
観光・シティプロモーション	17	1.5%			
産業	40	3.5%			
村岡新駅	12	1.1%	基本目標7	349	30.6%
河川	3	0.3%			
道路	42	3.7%			
自転車・自転車道路・駐輪場	22	1.9%			
交通・公共交通機関	102	8.9%			
まちづくり(全般)・公共施設・公園	113	9.9%			
藤沢駅周辺整備	55	4.8%			
デジタル	6	0.5%	基本目標8	62	5.4%
市民自治(全般)	15	1.3%			
地域格差	32	2.8%			
人権・平和	9	0.8%			
市政全般	103	9.0%	全般	103	9.0%
その他	9	0.8%	その他	9	0.8%
総計	1,141	100.0%	計	1,141	100.0%

ア 年代別の自由意見の傾向について

～9歳 1件

- ・病院を市内にもう少しほしいという意見がありました。

10～17歳 5件

- ・子どもたちの夢を叶えるまちづくりや、子育て支援への意見、自然環境を意識したまちづくりに関する意見などがありました。

18～29歳 53件

- ・子育て支援に関する意見が一番多く、次に災害に対する対策を求める意見や、渋滞の解消、道路の安全性のため交通ルールを徹底してほしいなどの意見がありました。

30～39歳 245件

- ・子育てに関する不安や支援の拡充など、子ども施策への声が3割を超え、次に、まちづくりや公園の整備に関する意見が多くありました。

40～49歳 314件

- ・学校の建て替えなどを望む声や、子どもの居場所、学童に関する意見など、子ども、若者に関する意見が一番多く、続いて、まちづくりや交通手段の充実、渋滞解消などの交通に関する意見が多くありました。

50～59歳 296件

- ・公共交通機関の充実など、交通に関する意見が一番多く、まちづくりや藤沢駅周辺整備に関する意見が次に多く見られました。防災に対する不安や対策を望む声も多くありました。

60～69歳 152件

- ・市全体への総体的な意見が一番多く、次に災害対策に関する意見が多く見られました。また、まちづくり全般への意見や移動手段の充実を求める声も多くありました。

70～79歳 56件

- ・市全体やまちづくりに関する意見が多くありました。自然をもっと残してほしいという意見や、高齢者に対する政策の充実を望む意見が他の年代よりも多くありました。

80歳～ 19件

- ・高齢者が安心して活動したり、住みやすいまちにしたいという意見などがありました。

イ カテゴリ別の自由意見概要（抜粋）

防犯

- ・交番の減少により治安が心配。二人交番にして、地域の安全を守ってほしい。
- ・LINEの防犯情報は通知が遅くて気が付けない。子どもが多いまちだからこそ、情報をもっとうまく活用してほしい。
- ・防犯カメラの強化を要望したい。
- ・藤沢駅周辺の若い女性などへの勧誘等、治安が悪くなっている。警察の巡回などを呼びかけてほしい。
- ・自転車のマナー改善や横断歩道の安全対策を要望したい。
- ・レンタルのコンテナ倉庫が多くあり、治安面で不安がある。
- ・湘南台駅周辺の治安悪化へ懸念がある。
- ・マンションの乱立による治安の悪化が不安。
- ・性犯罪者から子どもを守るため、どのような手立てをしているのか明示してほしい。

防災・消防・救急

- ・海沿いのまちにしては、津波対策への意識が低い。
- ・地震が起きたときに海側の避難所に逃げることは心理的に難しい。海側や海拔が低い場所に避難所があるのは非常識ではないか。
- ・三陸地域のように自治体、市民全体での訓練を行ってはどうか。
- ・台湾の防災対策のように、短時間で受け入れられるように、施設の充実や被災者の生活環境（心理、医療、健康対策、娯楽、年齢に応じた仕事の提供）等の提供を検討してほしい。
- ・商店街の活性化は防災の観点からも重要と感じる。
- ・南海トラフなどの大きな災害に備えて、予防対策や避難対策、被災後の生活支援対策を構築する必要がある。
- ・避難所の備蓄品や水の確保、救護、行政の体制などに不安がある。
- ・避難所運営はマニュアル化されているだけで実践を想定出来ていないと感じる。
- ・公共施設に大型の木製樽を設置して飲料を確保している例がある。
- ・災害の際、南部は河川や鉄道で分断され、木造家屋や細い道路も多く、救護活動に支障があると感じる。

- ・津波を想定した避難訓練がどこまで出来ているのか。津波対策がおろそかではないか。
- ・洪水時の避難場所が浸水想定区域 3 ～ 5 m の場所になっている。
- ・避難指示の仕方が紛らわしい。地図を出すなどわかりやすい避難指示の発令方法が必要。
- ・大雨時、湘南台では浸水被害が多発する箇所がある。わずかな雨でもマンホールから雨水が噴水のように噴き出す現状に不安。一日も早い治水対策をお願いしたい。
- ・災害時の避難所である学校の体育館の入り口に段差があり、車椅子では入れないため、対策をお願いしたい。
- ・地域毎の災害対策や、ボランティアに頼らない仕組みづくりをお願いしたい。
- ・人口に対して災害時の避難場所の確保が十分ではないと思っている。また、井戸水の確保や、移動トイレの確保、おがくずで処理するポータブルトイレなど、最新技術を取り入れた防災設備を準備してほしい。
- ・ペット同伴が出来る避難所の整備をしてほしい。
- ・藤沢駅周辺のビルの耐震性の見直しと改修をお願いしたい。
- ・こまめにわかりやすく地震や津波の対策情報の発信をしてほしい。
- ・真夏や真冬に災害が起こった際の停電が不安。また、非常事態のときの協力体制についても不安がある。
- ・救急車利用時に、搬送先の病院を速やかに確保してほしい。
- ・道が狭く車の往来も多い地域など、消防車や救急車がすぐに入ってこられるのか、防災面を含め安心安全と言えない場所がある。
- ・江の島周辺の津波対策。観光客が多く訪れるため、避難施設を増やすべき。
- ・緊急物資の輸送や配送方法を確立してもらえると自宅避難でも安心。
- ・緊急時支援体制の整備や支援物資、仮設住宅、非常用電源の拡充について検討してほしい。
- ・公園が少ないことや、空き地がマンションになる傾向がとて高く、災害リスクを感じる。
- ・避難所のトイレの衛生面を強化してほしい。
- ・避難所の利用ルールや冷暖房の整備など、人間らしい生活が出来るような対策強化をしてほしい。
- ・避難所となる学校が老朽化しているし、設備やスペースが不足しているため、充実させてほしい。
- ・南海トラフ地震など大地震の際に備えた市民対応、対策を学べる機会がほしい。
- ・時代の変化に応じた危機管理の対応が出来ているか不安がある。

- ・台風や地震などの予報が出ているときの公共施設の開閉がはっきりしない。市民の身の安全のため、公共施設を開けない対応にした方がいいのではないか。

歴史・文化

- ・市民会館の建て替えにより、文化芸術活動、人がつながる拠点になるとよい。
- ・子どもたちへの文化芸術に力を入れてほしい。
- ・市民会館建て替えや少年の森の再整備などで、子どもが安心して活動出来る場所や大きなホールがなくなってしまうのではないかという不安がある。市民にとっての意味を考え、もっとオープンにしながら一緒に進めてほしい。
- ・美術館やしっかりとした規模の博物館がないのが残念。
- ・かつては文化人が多く住み、文化や美術の発信の地だったことを踏まえ、文化が藤沢市民の誇りとなるような藤沢市のイメージ向上を期待したい。
- ・今まで守ってきたお祭りなどの伝統文化などが、苦情を受けて縮小している傾向にあるため、お祭りなどがあることをあらかじめ転入者へ知らせるなどをしながら、伝統文化の保護・活性化をしてほしい。
- ・アーティスト活動を後押しするような取組が少ないと感じているので、コンサートやワークショップなどの開催、参加がしやすくなるような仕掛けをして、アートやスポーツを楽しめるまちづくりをしてほしい。
- ・古い歴史に配慮した、地域の伝統や文化を大切にしたまちづくりをしてほしい。
- ・市民オペラだけにこだわることのない、新鮮でグローバルな文化活動や、現代に沿った魅力的なイベントを発案してほしい。

生涯学習・スポーツ

- ・村岡公民館移設後、藤が岡周辺に公民館がなくなるため、小学生の子どもが行ける距離で新設してほしい。
- ・図書館や図書室が充実していてありがたい。また、安心できる雰囲気嬉しい。
- ・体育館の貸し出しなど、子どもへのスポーツ施設の拡充や支援の充実をしてほしい。
- ・多方面に活躍できる挑戦の場をつくるような新しい提案があるとよい。
- ・藤沢駅周辺に大きな図書館があると嬉しい。
- ・スポーツを通じた子どもからシニアまで交流できる場や、藤沢駅周辺に新スタジアムを建設してほしい。
- ・大学の体験講座や市民講座の開設により、大人の学習意欲を満たす試みを増やしてほしい。
- ・スポーツ体験などの情報収集に苦慮しているため、情報サイトとして一つにま

とまっているものがあるとよい。

- ・海岸整備や海のレジャーの推進を希望する。
- ・子どもたちがスポーツに取り組める場所と指導者が少ない。

ごみ・廃棄物

- ・持続可能なまちを創造するため、プラスチックゼロ宣言を掲げてほしい。
- ・給水スポットの設置、海でのプラスチック使用規制などプラスチック対策を進めてほしい。
- ・ペットの排泄物や駅周辺の吐しゃ物への対策をしてほしい。
- ・ごみの減量とリサイクルへの取組強化をしてほしい。
- ・ごみの分別手間の簡略化を要望したい。
- ・ごみ袋の価格が高いので改定してほしい、また無料化を希望する。
- ・資源ごみの出し場所の表示がないので困惑する。出す場所の見直しをしてほしい。
- ・海岸でゴミを拾っても捨てる場所がないので、海岸のゴミ箱設置と回収システムを構築してほしい。
- ・海岸でバーベキューをする人が増え、匂いや騒音に加えてゴミを放置したり、埋めたりしているため、バーベキューを禁止してほしい。

環境（自然環境、温暖化対策）

- ・再生可能エネルギーや断熱が浸透して、脱炭素都市として認知されると嬉しい。そのような方向性が伝わる指針を策定してほしい。
- ・食品ロス削減の取組や地産地消の促進に力を入れてほしい。
- ・人と自然とが共存するまちづくりを目指してほしい。開発して他のまちと同じようになったら、藤沢としての魅力がなくなると思う。今あるものをよりよく活かす工夫をしてほしい。
- ・気候変動対策への本格的な取組をしてほしい。
- ・再生可能エネルギー100%に転換してほしい。発電所を増やす、そのプランを提供する電力会社との契約に切り替えるなどの対策をとれるのではないかな。
- ・EVや太陽光に関する補助金の導入を希望する。
- ・都心にも近いが自然も豊かであるという特徴を大切にして、環境保全を重視したまちづくりを期待したい。
- ・ごみのない、透明な海になるようにもっと綺麗にしたい。
- ・環境に負荷のかからない持続可能な開発をしてほしい。使えるものは残し、使えない箇所をリプレースするなどしてほしい。
- ・緑地管理やPFAS、放射線量の調査を継続してほしい。

- ・緑が少なくなり、野鳥も減ったと感じる。人間を含めた生き物が暮らしやすいまちにしてほしい。
- ・ごみの分別やスマートシティに取り組み、環境に配慮したよい活動をしている市だと思っているので、環境に配慮した都市としてブランド化してほしい。

子ども・若者・子育て

- ・子育てをするのに経済的な不安があるので、子育て支援の充実と子どもの貧困対策に力を入れてほしい。東京都のような手厚い支援をしてほしい。また、つくば市の病児保育の送迎、受診などのサポートや、松戸市や流山市などのよいところを取り入れて、子育て世帯の負担を減らしてほしい。
- ・保育園の狭さ、質など、預けるのに不安がある。
- ・保育園の入所枠に空きがなくて仕事に復帰出来ない。大阪市のように保育士を増やす政策をしたらどうか。
- ・子育てに関して不便で不安がいっぱいである。藤沢、辻堂、湘南台以外にも保育園を新設してほしい。
- ・夏の暑い時期に子どもが遊べる場所の整備など、子どもが楽しめる場や居場所をもっと作ってほしい。
- ・公園があっても、ボールを蹴ってはいけないなど、子どもがのびのびと遊べるとは言えない環境。子どもたちが安心して思い切り遊べる場所を提供してほしい。
- ・学童費が高くて預けられない。他の地域では17時まで無料でそれ以降は有料というところもあるのに、なぜ藤沢市は実現できないのか。
- ・こども誰でも通園制度や気軽に預けられる場所など、保護者が育児を楽しむ余裕が生まれるように支援をしてほしい。
- ・妊娠時の通勤支援や出産後の紙おむつ、離乳食、ベビーカー購入支援等の検討をしてほしい。
- ・年齢制限なしで保育の無償化をお願いしたい。
- ・子どもが育つ公共施設にもっと目を向けてほしい。青少年会館や公民館を、子どもや若者がもっと利用しやすい環境にしてほしい。
- ・児童館や子育て支援センターなどがもっと連携して、必要な家庭に必要な支援が届くようなシステムがあれば、救われる子どもたちが増えると思う。
- ・児童数が増えて学校の教室不足や、先生の不足など、設備や人材が不十分である。
- ・子どもの医療費については充実したが、産婦人科も少なく産後ケアなども不十分で、検診の際も遠くの施設まで行かないといけなくて不安。
- ・図書館や子育て施策などは、他市に負けている。多くの高校、大学を抱える文

教都市であるので、経済、教育、子育て支援で負けてはいけない。

- ・子どもが病気になったときもちろんだが、親が病気になった時のサポートを充実させてほしい。
- ・都内の公立小学校では、警備員が常駐していたり、放課後児童クラブが校内にあり、働いていなくても利用出来て子育てしやすかったと感じたので、藤沢市でも導入されることを期待する。
- ・第2子以降の産休育休時に、第1子の保育が16時までの規定になっているが、産褥期に16時までの迎えは難しく、その他の保護者の迎えも難しい可能性があるなかで、保育時間を短くされることは第2子を産むなどと言われているのと同義である。保育時間を延ばすなどの対応を検討してほしい。
- ・決まった政策を迅速に実行してほしい。公立保育園の主食提供が決まっても、全園ではなかったり、保育料の多子軽減制度における年齢制限、施設要件の撤廃が決まったが、すぐの実現ではなかったりするるので、一日でも早く実現してほしい。
- ・共働きが当たり前になっている時代に合わせた子どもの居場所づくりをしてほしい。特に学校が休みのときに安心して過ごせる場所を充実させてほしい。
- ・子どもの数が増えていて、医療費、保育の充実などはとてもよいと思う反面、教育施設の老朽化が目立つ。学校の校舎が古いうえに教室不足でプレハブ教室を何十年使用しているのか。市役所にはお金をかけて、未来ある子どもたちへはどうしてお金を使えないのか疑問。
- ・小学校の児童数増の対応は学区変更だけで大丈夫なのか。将来的に高齢者入居施設に使用できる学校の新設など、対策をしてほしい。
- ・子どもの塾代が高くて行けない。
- ・所得制限による子育て支援のサービス低下は不満であり、平等ではない。税金は多く払っているはず。子どもの数も考慮すべき。
- ・高校生や大学生の支援も大事だと思う。
- ・子ども会が機能しなくなって廃止されるなか、代替機能の構築をしてほしい。
- ・感染症の流行に関する情報について、市のホームページなどに載せてほしい。大和市では学校や学年、何日間、学級閉鎖などきちんと載っていた。親としてどこが流行っているか把握しておきたい。
- ・不妊治療の助成を復活させてほしい。保険適用になっても自己負担額が高い。
- ・共働きで、小学校入学を控えているが、登校可能時間が朝8時15分からと知った。朝の時間をどう過ごせばいいのか、働き続けられるのかを不安に思っている。

教育・給食

- ・市内の学校施設が古いので、公立の小中高校全てを順番に建て替えてほしい。
- ・中学や高校でも給食室を設置して、給食の提供をしてほしい。
- ・現在の学校給食の質が下がっている。中学生から給食がないことが一人親や共働きの家庭に負担になっていると感じている。給食にすることで栄養バランスやお弁当作りにかかる時間や負担が減り、メリットがあるのではないかな。
- ・六会小学校の近くは通学路が狭く危険であり、安全な道を通ると時間がかかる状況がある。また、六会中学校への通学も遠いため、学区の見直しをして子どもたちが無理なく登校できるようにしてほしい。
- ・中学校のお弁当のニーズが高いのは、昼食時間が不足しているため、食べる量を少なくせざるを得ないからである。部活動の時間を減らしてでも昼食の時間をしっかり確保し、子どもたちの健康を守ってほしい。
- ・不登校や特別な支援が必要な子どもたちの居場所の確保や、学びの環境として特例校の設置をお願いしたい。また、フリースクールへの補助はないのか。
- ・若年世代への投資や学校施設の改善、教育環境の充実を求める。
- ・子どもたちの教育に対する補助や、公立学校の体育館への空調整備、トイレの拡充やリフォーム、給湯器の設置などを検討してほしい。また、教育に係る人材への投資もお願いしたい。
- ・特別支援学級の拡充をお願いしたい。また、学区選択を自由に出来るようにしてほしい。
- ・子どもの教育に対する補助や教育の充実を図ってほしい。
- ・国外の例だが、公用語を話せない人のための翻訳アプリや、通訳の人に直接通話できるタブレット端末が設置されていたり、学校に行くための道具を用意してくれている。その国の状況が一番と思っているわけではないが、子どもたちや先生が楽しそうにしている。
- ・義務教育の間は給食を無償化してほしい。
- ・人口が増加しているのに小学校、中学校が少ない。
- ・学校がもっと地域に開かれていてほしい。身近に活躍している農家、お店、様々な仕事の方々から学べる機会を増やしてほしい。

高齢者

- ・高齢者への援助が薄いと感じる。
- ・高齢者に対する交通手段への支援について、無料パスの配布やコミュニティバスの運行などを実施してほしい。
- ・歩道の整備、若い世代との交流などの施策をしてほしい。
- ・高齢者が暮らしやすく、孤立しないような工夫や、安心して暮らせるまちにし

てほしい。

- ・元気な高齢者が気軽に楽しく集える場や、買い物が難しい高齢者の生活支援などをしてほしい。
- ・さいたま市のようにシニア大学や歩数計による取組など、いつまでも生き生きと暮らせる仕組みを検討してほしい。藤沢サポーターズはよい取組だと思うが、地域社会のつながりは作りにくいとも感じる。
- ・老年学やユマニチュードへの取組があり、必要な介護が必要なだけ受けられるようになったら安心である。
- ・公園が高齢者のよいコミュニティの役割を果たしているので、そういったことが可能な公園づくりを考えてもらいたい。
- ・子どもに対しての補助や仕組みはあるが、高齢者が安心して暮らせる仕組みや取組が感じられない。
- ・高齢化率が進んでいる地域は、これからどうなるのか不安に思う。

障がい者

- ・障がい者福祉の従事者や事業者が少なく、困っていても助けてもらえない。
- ・障がい者入所施設をつくってほしい。安心して一生預けられる場所がたくさんできることを希望している。
- ・支援学級の不足に対する対応と、障がいのある子どもを育てる親も働くことが出来る環境を望む。
- ・障がいのある人たちの給与が安く、経済的自立の難しさがある。経済的自立が出来る仕組みを望む。
- ・障がい者への差別のない生きやすい市づくりをしてほしい。
- ・障がいのある子を抱える親への支援が不足している。

暮らし（居住）

- ・マンションの増加による人口増加と騒音が不安。
- ・老朽化住宅の資産について若年層への円滑な継承を行い、住みやすい環境整備をしてほしい。
- ・建築基準法の違反がそのままにされている。
- ・新しいマンションなどが建設されている一方で、空き家が増えている印象がある。空き家の有効活用が進むとよい。
- ・賃貸物件など、高齢者の住む場所に対する不安がある。また、大家族や多世代向けの住宅なども重要ではないか。
- ・辻堂団地はエレベーターもついていないところが多く、老朽化が進んでいる。高齢者でも住みやすいように改善してほしい。

医療・介護・健康づくり

- ・健康を守るための施策と身体活動の場の増設を希望したい。
- ・高齢者介護について、従事者、サービス、施設などの充実をしてほしい。
- ・带状疱疹ワクチンの助成金制度をお願いしたい。ワクチン関係の助成の動きが遅い。
- ・健康意識の向上と予防に重点を置くような施策があればよい。
- ・医療体制の充実と病院の誘致を要望したい。
- ・ずっと住み続けることが可能になるように、医療的ケアなどの充実を求める。
- ・健康診断クーポンや歯科検診などの市民の健康を守る取組を今後も続けてほしい。健診場所の拡充（他市も可能とするなど）も求めたい。
- ・観光都市である一方で世界中から入ってくる感染症リスクもあるので、対策を行って子どもたちをリスクから守る体制の強化を要望したい。
- ・無塩、減塩のお菓子を開発して、健康寿命を延ばす試みがあっても面白いのではないかな。

見守り・地域共生（福祉）・在留外国人

- ・高齢者施策やイベントなどの事業実施ばかりで、学生や働き世代へのアプローチが希薄である。
- ・地域コミュニティの希薄さを感じる。
- ・高齢者のつながりの場所が目立つが、現役世代のつながる場所や方法も必要ではないかな。
- ・新しく転入してきた人とずっと住んでいる人との交流が進み、幅広い世代の人々が協力したり思いやりを持って過ごしやすいまちになることを望む。
- ・大きな市と比べると生活弱者に対する支援が少ないことが不安。革新的な取組や素早い対応を期待する。
- ・多様性を活かし、学び合える場所づくりが望まれる。
- ・在留外国人が増加しているため、文化の違いやルールの認識などを互いにより深めていく必要があるのではないかな。

雇用・就労

- ・高齢者や障がいのある人への仕事機会の増加をお願いしたい。
- ・65歳を超えても現役で働ける産業を創出してほしい。
- ・子育て世代の流入で活気が感じられるが、藤沢市内で働いている人は少ないので、市内での雇用創出支援を行ってほしい。高齢になっても働く場のある元気な藤沢市を期待したい。

- ・生活困窮者や障がい者に対して、給付金ではなく仕事の斡旋などで自活をサポートしてほしい。

観光・シティプロモーション

- ・観光地としてのレベルアップが必要である。廃れた感じや地域のつながりの軽薄さ、景観の壊れや地域価値の下落などを感じる。
- ・観光客のマナーや治安に不安を感じる。
- ・藤沢市の認知度が低い。藤沢に江の島があることが知られていない。
- ・観光地としての魅力を高め、湘南藤沢のブランドを確立してほしい。
- ・江の島を中心としたインバウンドの受け入れ準備や、通訳ボランティアのサポート、地産地消の商品のアピールなど、観光業の発展に向けた取組の強化を望む。
- ・観光地であるので、ごみ箱の設置や街灯の整備など、きれいで安全なまちづくりの取組の推進をしてほしい。

産業

- ・わくわくできるような個人商店の増加を期待する。
- ・ショッピングセンターの活性化と飲食店・衣料品店の誘致をしてほしい。
- ・子育てのまちとしての魅力を高め、女性の起業を支援することが、子育てしやすいまちとの相性がいいのではないかな。
- ・地元特産品を販売し、アピールする商業施設がない。
- ・工業、商業、農業、畜産業、漁業、観光業などに恵まれた素晴らしい地域なので、そこに若者の知恵を活かせるとさらによい。
- ・北部に活気がないので、特産物や農業体験、果樹園体験など北部のよさをアピールしてほしい。
- ・農業後継者が少なくなり、耕作放棄地が増えている。市の管理を期待したい。
- ・農業も土も知らない子どもたちが育つことが心配である。食育、農業への理解促進や、自給率を上げる取組を大切にしてほしい。
- ・住み続けたいがやりたい仕事がない。企業誘致を頑張ってもらいたい。

村岡新駅

- ・村岡新駅に対して公費を費やして回収できるのか。財政管理の健全化、透明化を図ってほしい。
- ・東海道線への新駅設置は不要。通勤時間が長くなりデメリットとなる。新駅よりも湘南台文化センターをきれいに改修してほしい。他市と比べて子どもが遊べる場所が見劣りする。

- ・村岡新駅開設に伴う周辺環境の悪化が懸念される。市民の望む開発とはいえないため、市政の根本に立ち返ってほしい。
- ・村岡新駅にどれほどのコストがかかるのか。他の問題解決に必要な費用が後回しにされてしまうことを懸念している。
- ・村岡新駅設置に伴う交通渋滞を心配している。

河川

- ・河川の護岸に木が生えている箇所があり、災害時に水の流れを遮断する。
- ・柏尾川と境川の合流地点の風水害や津波の影響を身近に感じている。
- ・自然災害対策の強化をしてほしい。川の氾濫が心配。

道路

- ・交通量が多いのに狭く損傷している車道と歩道の整備をしてほしい。
- ・街路樹がうっそうとしているので、きちんと管理してほしい。
- ・救急や消防、警察車両の通り抜けが困難な箇所について、アクセスルートを確保するように対処してほしい。
- ・夏の日差しから守ったり、街並みの魅力向上のために、街路樹を増やしてほしい。
- ・電車の高架化や電柱の地中化による交通改善を希望する。
- ・交差点の改善や歩車分離化をして、子どもから高齢者まで安全に歩けるようにしてほしい。
- ・道路幅が狭く歩行者への危険がある箇所について、計画的な一方通行化を要望する。
- ・昭和30年代に計画した道路について、住民の意見を聞かずに立ち退かせようとする市政に憤りを感じる。
- ・大雨時の道路の冠水について対応してほしい。
- ・街路樹の成長により道が割れるなどの影響が出ているが、伐採して新しい植栽をするのではなく、今ある木を残しつつインフラ整備を行えないか。
- ・通学路で車通りも多く、カーブでスピードが出るのに、信号機がついていないため危険な箇所がある。安全に通学できるように対応してほしい。

自転車・自転車道路・駐輪場

- ・駐輪場が不足している。人口が増えているのに置き場がないのは困る。
- ・自転車の交通ルールがとても悪いと感じる。子どもの通学路の安全性が懸念されるので、自転車レーンの整備や交通ルールの徹底が必要である。
- ・道路の整備が必要で、自転車道や歩道の拡充が望まれる。

交通・公共交通機関

- ・公共交通機関の整備、維持を願いたい。
- ・テラスモールから湘南モルフィル間の渋滞がひどい。大通りをバスで巡回するのはどうか。
- ・北部地域の交通手段を充実させてほしい。
- ・藤沢駅周辺、辻堂駅周辺、海岸沿いをはじめとした交通渋滞の解消をしてほしい。
- ・いずみ野線の延伸はどうなっているのか。現状などをわかりやすく市民に伝えてほしい。
- ・高齢化と渋滞緩和に対応したモビリティの充実に期待したい。
- ・バスの本数が減り不安がある。
- ・歩道がない、道幅が狭い、道路に凹凸があるなど交通に関する危険な箇所があるので、点検や対策を進めてほしい。
- ・こどもパス、敬老パスなどの移動支援があるとまちににぎわいが出る。
- ・免許を返納した後の交通手段が不安である。送迎手段や宅配サービスを行政で支援してもらいたい。

まちづくり（全般）・公共施設・公園

- ・まちの景観や緑地の保全を重視し、過度な開発を避けてほしい。
- ・税収の見込めない時代になっているので、市民会館など、今より大きく華美にならないようにしてほしい。
- ・緑と海が魅力の1つなので、自然環境や景観の保全に重点を置いたまちづくりを進めてほしい。
- ・マンションをこれ以上増やさず、景観を大切にしたい魅力的なまちづくりをしてほしい。
- ・自然の豊かさとまちとしての利便性が両立していて、住みやすいという現状のよさを壊さないようにしてもらいたい。
- ・藤沢駅や湘南台駅周辺が凋落の一途をたどっていると感じる。都市開発を希望する。
- ・子どもから大人まで使う公園の整備を進めてほしい。また、遊具が劣化していたり、遊具が少なくて寂しい公園もあるので、子どもたちのために改善してほしい。ボール遊びできる公園が少ない。
- ・公園に設置されているトイレが怖い、汚い、暗いと感じる。また、和式を変えてほしい。
- ・街路樹の整備、ごみ捨て場、公園の管理が行き届いていないと感じる。品川区

では公共施設に季節の花が綺麗に咲いて、安心して子どもを遊ばせることが出来た。

- ・道路や交通環境、利便性などの改善を進め、子どもから高齢者まで誰から見ても優しいまちになるよう期待したい。
- ・利用する市民のことを第一に考えて公共施設をつくってほしい。
- ・行政区域の見直しをしてほしい。
- ・人口が減少しても精神的に豊かに、かつ穏やかに過ごすことが出来るまちづくりが必要。20年後の人口を見据え、それに合ったインフラ整備や施策を行うことが重要。拡大再生産ではなく縮小再生産を目指す取組をしてもらいたい。
- ・自然、歴史、文化を活かしたまちづくりを行い、そのような取組をする民間事業者にインセンティブを与える仕組みにしていきたい。他のまちにないものに磨きをかけることで、魅力的な選ばれるまちになっていくと考える。タワーマンションを建てるなど土地を高度利用できる仕組みにしたり、農地や森林を開発して工場や物流倉庫にしたり、高規格道路を建設することを懸念している。どれも税収が上がり市政運営に有利に働くが、一方で藤沢らしさが失われ、他の市町村と同じような風景になると思っている。人口減少社会で税収優先のまちづくりを行ってはいは、自然環境や市民が疲弊すると思う。貨幣経済に頼らない、次の社会の幸せの形を発信できるまちになっていただきたい。
- ・新駅開発に税金を投じず、市内の住民が継続して住みやすい環境整備を進めてほしい。シングル層に対しても大人向けの落ち着いた文化施設があるなど、魅力的なまちにしてほしい。
- ・人口44万人は多すぎではないか。豊かな自然、人間らしい生活を取り戻してほしい。
- ・湘南台近辺はもう少し力を入れて商業施設を増やしたり、子どもの遊べる場所を増やすか、湘南台市民センターをリニューアルするなどあれば、人も集まると思う。いずみ野線延伸により、より一層人が集まりやすくなるので、早く進むことを期待する。
- ・ビーチがある環境を活かしきれていない。海外からも来たくなるようなリゾート感のある環境が必要ではないか。ゆとりを感じる都市計画が必要と感じる。広い土地を細切れにして住宅を建てていては、他の地域と同じ住宅街の風景が広がってしまうだけでよさが失われる。
- ・公園近くに住んでいるが、ごみを捨てられたりとモラルが守られず不安なため、市の管理する公園すべてにカメラの設置を希望する。
- ・ライフタウンに新しい商業施設や駅の設置などをして、若い世代にも住んでほしい。

- ・いずみ野線の延伸には反対する。
- ・人口が増えているうちに他の自治体を先導するような特徴的でチャレンジングな企画をたくさん試してほしい。不安は、タワーマンションの建設や開発が進み、個性がなくなること。

藤沢駅周辺整備

- ・辻堂駅周辺は元気があるが、藤沢駅周辺は元気がない。
- ・藤沢駅周辺の中心部にはマンションや家電量販店が増え、同じような規模の駅と比較するとがっかりする。買い物する魅力がない。買い物したくなるまちづくりを希望する。
- ・藤沢駅前の魅力がない。統一感がない。治安や雰囲気が悪くするお店が多い。集客力のある建物への建て替えや、自然、水場を設けるなど魅力的な駅前を作してほしい。
- ・藤沢駅の改良工事を急いでほしい。動線が悪い。西側に改札を設けることで住居の多い地域への動線をスムーズに出来るので、実現してほしい。
- ・小田急線とＪＲ線の乗り換え口にエスカレーターがなく、また、ホームが狭い。ホームドア、エレベーター、エスカレーターをつけてほしい。利用者が多くいるのに使いにくい。
- ・藤沢駅周辺の整備に障がいのある方がプロジェクトに参加することで、障がいのある人もない人も住みやすい藤沢になると思う。
- ・藤沢駅周辺について、子連れで行きやすいお店や施設などが少ない。気軽に休憩できるようなフリースペースやカフェなどが、今後出来たらよいと期待する。
- ・駅周辺の活性化、特に音楽や美術館、歴史的建物を活用した文化施設など、藤沢駅のアクセスのよさを活かした地域づくりに期待したい。
- ・北口は、人工芝でゆったりと過ごせたりイベントが行われたりと、南口とは違うにぎわいがあるが、そこから奥が寂しく感じる。例えば遊行通りは、路面などはとてもよい感じだが、シャッター街で閑散としていて不安がある。
- ・ごみのポイ捨てなど、藤沢駅を利用している人のモラルについて悲しく感じることもある。

デジタル

- ・市役所はＤＸを活用して効率的な事務処理を行ってほしい。
- ・ＩＣＴ分野では地域のコミュニティをつなぐデジタルプラットフォームがあるとよい。市政情報や災害情報配信に加えて、地域に根ざした自治会・町内会のお知らせや、地域のイベントなどをワンストップで閲覧できる仕組みがあ

るとよい。

- ・市民の利便性を考えないでのデジタル化推進はしないほしい。
- ・デジタル化を進め、業務の効率化と、必要な業務への人材配分を促進することが望まれる。
- ・A I 活用による市政の効率化と、ロボット活用による介護の充実をしてほしい。

市民自治（全般）

- ・藤沢市民は自ら学び続け、市民で自治を行っていく気概と寛容があるよさがあるが、人口増により子どもたちが増えている地域では、教育環境が心配である。今あるものをどう生かしていくかを、市民が考え、50年後も安心なまちにしたい。
- ・地域で安心して交流できる場所が少ないと感じている。例えば北部地域では、ファーマーズマーケットを開くなどを交流の一つとしてほしい。
- ・人口が増えて活気が出ることは望ましいが、コミュニティが希薄になることを放置していると、働き甲斐や生きがいを感じにくくなりそうだと懸念している。
- ・若者が市政に参加してほしい。みんなが意見を言える風通しのよいまちになってほしい。
- ・高齢化、共働き世帯が増加している中で、地域の役員の負担軽減をしてほしい。また、時代に合った自治会の運営方法や成功例などの講習会を積極的にしてほしい。
- ・自治会機能の廃止と防災に関する理解をさらに高める活動を希望する。
- ・習い事に関する補助金などがあれば、地域活動がしやすくなる。

地域格差

- ・藤沢市の南部と北部では地域活性化の差があり、改善が見られない。
- ・駅周辺と南部は人口が多く、北部は過疎化している。南部は人口密度が高く、災害時の被害が大きくなることが見込まれるので、できるだけ人口が平均的に分散するような成長を促した方がよい。北部は調整区域を解消し、環境保全については、あらためて環境保全の条例を制定したらいいのではないかな。
- ・地域差が学校や医療、商業施設などの福祉や文化にも現れている。
- ・地域の特色を活かし、地域差を解消する取組が必要。
- ・北部にも魅力的な施設が必要であり、小さい子どもを遊びにつれていける公園や商業施設を希望する。
- ・地区により年齢層の偏りがあり、高齢者が多い地区の増加について懸念があ

- る。藤沢市全体で魅力ある場所になるようにしてほしい。
- ・北部の開発や交通の利便性の向上、住民の生活しやすさの改善に取り組んでほしい。

人権・平和

- ・いつまでも平和であってほしい。平和が続いていてほしい。
- ・LGBTQが自分らしく生きられるように、行政の取組をしてほしい。
- ・マイノリティの人々の声をしっかり取り上げて、多様な価値観をお互いに楽しむことが出来るように、行政からマインドセットをしてほしい。
- ・外国人が多く住み始めているが、文化の違いからの差別や偏見が起こらないようにしたい。
- ・多文化共生が多文化強制にならないよう、様々なことを判断してほしい。
- ・心も体も成長段階にある子どもへの人権教育については慎重に考えてほしい。
- ・障がいがあっても差別されることがないまちにしてほしい。理解が得られず生きづらさがある。

市政全般

- ・ふるさと納税をもっとしてもらえるように、魅力的な品目を開拓してもらいたい。
- ・より市民の想いが実現しやすく、声を上げると実現できると思えるようなまちづくりを目指してほしい。
- ・コスト削減に向け、公共施設の在り方を十分協議してほしい。
- ・財源を市民に還元し、市民の生活に直結する施策に予算を使ってほしい。
- ・藤沢市全体の将来を見据えたまちづくりを考えていただきたい。短絡的な思考により市政を進めているように見える。市民の声が聞こえていない市政は、市民に絶望感を感じさせる。誰のための市政なのか真剣に考えてほしい。
- ・市職員の担当者のレベルに差があり不安と怒りを持っている。
- ・人口減少社会を前提とすると、リソースやサービス拡大が困難になっていくため、行政の明確な選択と柔軟な運用を期待する。
- ・市政について、過去の状況や現状を踏まえながら税収の確保を考え、説明責任を果たしながら決定していてもらいたい。
- ・制度や政策が東京と比べると遅れている。さらに住みやすくなることを願っている。
- ・他市に比べて税収面で優位な状況にあるうちに、将来への投資をしてもらいたい。
- ・自然と都会が共存する藤沢市の特徴を活かして、魅力的なまちづくりを進める

- べき。また、安全で健康的な「食」と「水」の改善を強く希望する。
- ・子どもたちが藤沢に愛着を持ち残りたい、支えたい、新たな家庭を持ちたいと思える環境を、これから作っていけるかどうか大切に思っている。

その他

- ・市民のため、そして子どもの世代へ素敵な藤沢市を残すため、市議会議員がもっと尽力してくれることを期待する。
- ・水道事業の市の管轄を希望し、民営化に反対する。
- ・市民のマナーについて、民度の低下を感じる。

3 インターンシップの大学生による分析、意見（参考）

2024年（令和6年）9月18日及び25日に、インターンシップの大学生4名によるアンケート結果の年代別の傾向等の分析と意見交換を実施しました。（意見の概要）

- ・10～40歳代は子育てに関する意見が多いのが特徴的である。
- ・高齢者になると自分自身の暮らしについての関心が高いのではないかな。
- ・まちの整備、まちづくりに関しての意見はどの世代でも共通している。
- ・主に高齢者には、マンションが多すぎる、静かに暮らしたいという意見が多数あり、行政側は都市基盤の整備をして栄えてほしいとしているが、高齢者はそうではないため、合意形成が大事になる。
- ・まちづくりについては、バランス重視がいいと思う意見と、突き抜けている方がいいという意見があるが、生活の利便性は向上させたいが、自然が守られないのはちょっとという、バランス重視の意見が多い傾向である。
- ・子育て世代からは、自然が多くある中で子育てしたいという意見があった。自然の中で子どもを育てる、遊べる場所が必要と思う人が一定数いるのではないかな。
- ・ずっと住んでもいい条件として、利便性が整っていて、車でちょっといけば自然に触れられる点をいいと考えているのではないかな。住むときに自然は大事なポイントとなっている。
- ・主に藤沢駅周辺などの繁華街に対して、治安に対する不安、客引きに関する意見や駅に酔っぱらっている人が倒れているという意見があり、防犯カメラを増やしてほしいという声もあった。
- ・市民は行政サービスについて、他市と比較していることがわかった。
- ・市民が藤沢市に愛着を持っていることが伝わった。アンケートの回答全体をとおして、行政ができることなのか、と思うような意見もあったが、市民の意見が言えるところが行政であるのか、と感じている。

- ・エリアによって違うということも藤沢のよさにつながる。
- ・藤沢市は子育て支援に関しては力を入れていると感じていたが、不満の意見が多くて意外だった。充実していると思っているところが、実際に子育てしてみると違って見えるのかもしれない。最近の子育て支援では、直接給付する事業があり、わかりやすく恩恵を感じられるが、その事業が持続可能なのかも検討する必要がある。
- ・この先の人口減少を考えるとバランスのよい事業を進めていく必要があり、市民に説明・理解をしてもらわないといけないこともある。
- ・まちづくりの開発の仕方に意見が多いことには驚いた。
- ・鉄道網がいきわたっていると思っていたが、賛否両論があった。交通については、エリアや人によっても大きく要望が異なってくるが、環境面を考慮しても公共交通の維持が大切だと感じた。

以 上